

命の水の川——聖書とはどのような本か？

2018/09/03

井田 泉

1. 聖書は物語の本である

物語（ストーリー Story）を物語る本である。教訓集ではない。

出来事（たとえば「マリアがイエスを産んだ」）が中心にあり、その出来事が口で伝えられ、やがて物語として書き留められた。3000 年以上にわたってたくさんの物語が伝えられ、集められて、今日の聖書になった（紀元 2 世紀）。「どうしても伝えたい」「ぜひとも聞いてほしい」「共有したい」内容があるから伝えられた。その内容とは「神の愛」「人の命の源」。

2. 聖書は大きく二つからなる

旧約聖書はイエス以前のもの 「創世記」から「マラキ書」まで 39 巻。

新約聖書はイエス以後のもの 「マタイによる福音書」から「ヨハネの黙示録」まで 27 巻
「三九 二十七」とおぼえるとよい。

聖書全体の中心は救い主イエス・キリスト。

旧約聖書はイスラエル民族の歴史（History）を語りつつ、やがて来られる救い主を予告する。

新約聖書はマリアから生まれたナザレのイエスとその救い主であることを語る。

3. 聖書全体を貫く命の水の川

(1) 創世記 2 : 4 - 15 聖書の初めに「命の木」が出て来、その付近から川が流れ出す。

(2) エゼキエル 47:1-12 「これらの水は……海、すなわちよごれた海に入って行く。すると、その水はきれいになる。」 47:8

(3) ヨハネの黙示録 22 : 1 - 5 聖書の最後に「命の木」が出て来、「命の水の川」が流れる。

世界と人類の最初に命の水の川が流れ出し、未来の救いの完成の場面に命の水の川が流れる。

この世界は言わば荒野、砂漠。人類は荒野を旅しているようなもの。私たちが砂漠を旅する旅人。命の水を得て、渇きをいやし、力づけられる。

言わば聖書全体の中に、見え隠れしつつ命の水の川が流れている。聖書は、その命の水（神の愛）がこれまで、どこに、どのようにあふれ出してきたか、人はどのようにそれを飲んできたかを語る。また今、私たちがどこでどのようにして命の水を汲むことができるかを指し示す。

4. イエス・キリスト——命の水（神の愛）の噴出

人類の歴史の中で、もっとも激しく豊かに、決定的に命の水が噴出した時と場所がある。

それがイエス・キリストの誕生、生涯、十字架の死と復活。

ヨハネによる福音書 4 : 1 - 15 サマリアの女性とイエスの出会いの物語。

イエスは、深いところに渴きを持っていた女の人と出会い、このように言われた。

「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」 4 : 14 7 : 37 - 38 も同じ趣旨。

イエスが与えてくださる命の水は、私たちがうるおし、いやすばかりではなく、私たちをとおして周りの人をもうるおしていく。イエス自身が耐えがたい渴きを知っておられた。知っておられたがゆえに、人の渴きを知り、またいやすことができる。命の水を飲んだその人に、新しい人生が始まる。